

ワンデイセミナー 振り返り

ワンデイセミナーのねらいと構成

◇シリーズワンデイセミナーの主旨

従来から、土木計画学研究委員会では土木計画学講習会をおおむね年1度の頻度で開催し、土木計画分野に関わる広範な教育の効果をあげてまいりました。しかし、近年、土木計画学に対する社会的要請の高度化や計画学分野自体の細分化等に伴って、従来の講習会の開催規模と頻度のみによっては、十分な教育効果を発揮し得ない状況が現れつつあると考えられます。より柔軟かつ多様に、研究成果の普及や教育活動を進める工夫が必要になっていくと考えます。

そこで、土木計画学研究委員会では、(1)特定研究領域の導入、(2)特定研究成果の普及、(3)特定技術・手法の教育といった目的のいずれかでセミナーのシリーズ開催を企画いたしました。1日で終了する簡便なセミナーとすることから、シリーズ土木計画学ワンデイセミナーという名称で継続的に実施いたします。

このセミナーでは比較的少数の受講者に特定テーマに関する専門的な知識を短期間で習得してもらうことを考えております。従来の講習会と比べ企画主体や準備期間などに殆ど制約がなく、簡便な体制で臨むことを旨としております。プロシーディングスの印刷発行を想定していないのも、セミナー当日の生放送の面白さを企画側と参加者とで共有することが最大の特色であるためです。

第1回：交通計画とマーケティングサイエンス技法／屋井鉄雄

・多い分野

→交通、物流、防災、地域、解析、ITS、バリアフリー

✓特に**研究小委員会の活動**をベースにしたテーマは、継続的に開催されている

・少ない分野

→港湾、海岸、河川、鉄道、航空、電力、通信、エネルギー、気候、社会

✓土木計画学研究発表会ではセッションがあるが、ワンデイセミナーに登場する頻度が少ないor無いフィールドやテーマもある

1	交通計画とマーケティングサイエンス技法
2	ヘドニック・アプローチによる便益計測手法
4	水辺づくりにおける地域参加を考える
4	交通ネットワークの分析手法－実務と理論研究の接点
5	海浜の景観デザインの課題
6	大規模都市開発と交通インパクトの評価
7	交通情報システムをとりまく諸問題
8	観光交通計画－観光地域の交通問題への対応
9	土木計画とパブリックインボルブメント
10	総合ターミナルとしての駅の整備計画（1）『駅』
10	総合ターミナルとしての駅の整備計画（2）『駅』
11	地域公共交通に明日はあるのか？－市場・計画・技術の新しいフレームを求めて
12	福祉のまちづくりの哲学と設計思想
13	効果的なTDMの定着を目指して
14	環境整備の便益評価
15	応用一般均衡モデルの公共投資評価への適用
16	都市物流の新たな展開
17	交通事故分析とITSによる交通事故低減の可能性について
18	ITS－効率的な道路利用に向けて
19	土木計画における公平論を巡って
20	近年の豪雨災害を踏まえた新たな洪水対策の展開－ソフト対策による被害軽減策の新しい流れ
21	行動理論と土木計画
22	交通事故分析とITSによる交通事故低減の可能性について（2）
23	ITS－効率的な道路利用に向けて（2）
24	交通安全対策のフロンティア－道路安全監査システム
25	高齢社会の都市基盤整備と交通システム

26	国際シンポジウム「超長期的展望にもつづく持続可能な都市への再生戦略」～ 目標、制約と政策～
27	参加型計画への集団意思決定手法の応用
28	高齢者・障害者を中心とするコミュニティ交通計画と交通バリアフリー
29	ITS社会における交通安全研究の方向性について
30	効率・環境改善に向けたITS～現状と課題
31	効率的で環境にやさしい物流システム～道路交通を中心とした物流施策ハンドブック策定に向けて
32	大規模社会基盤施設の計画的評価
33	ITS社会における交通安全研究の方向性について2
34	規制緩和後のバスサービス～現状と課題
35	土木技術者の新しい地平～交通バリアフリー実現に向けて
36	関西からの復権！都市計画に未来はあるか？
37	環境とITS
38	バスサービスの課題と処方箋
39	土木計画学研究会「土木計画のための態度・行動変容ワークショップ」ワンデーセミナー 社会的交通マネジメントによるTDMと公共交通利用促進～交通行動はコトバで変わる～
40	ITS評価のための交通行動・需要解析
41	今後のITS研究の進むべき方向性について
42	AHPとコンジョイント分析
43	現代の「新」都市物流—ITを活用した効率的で環境にやさしい都市物流へのアプローチ
44	防災の経済分析—リスクマネジメントの施策と評価
45	新しい地域交通戦略を考える—DRT・コミュニティバス・地域福祉交通（移送サービス）を中心に—
46	地域防災力の向上を目指して—災害調査の体系化と災害情報システム
47	利用者均衡配分の実務適用上の課題と工夫
48	歩行者・自転車交通研究の体系的整理と戦略的展開
49	社会基盤の政策マネジメント～実践と展望
50	物流の調査・モデル化・評価の方法論に関する研究」小委員会「政策評価のための都市圏物流の調査とモデル化

51	態度行動変容と土木計画・土木計画学
52	地域公共交通セミナー～地域交通計画の策定に関する講習会～
53	自転車から中速グリーンモードへ-利用空間整備の方向とその評価-
54	魅力ある持続的観光地形成に向けて
55	シームレスアジア・アフタヌーン・セミナー：変貌するアジアの国際交通
56	シームレスアジア・アフタヌーン・セミナー：変貌するアジアの国際交通
57	安心安全かつ健康快適な社会を創造するロジスティクスシステム
58	我が国の環境・地域・交通の今と未来 - 新たなかたちづくりに向けて -
59	我が国の環境・地域・交通の今と未来 - 新たなかたちづくりに向けて -
60	交通基本法に関する討論会
61	公開フォーラム 中速グリーンモード自転車の空間整備
62	生活を支える地域公共・福祉交通と交通バリアフリーの成果と課題
63	社会・経済リスクの下での社会資本整備の経済効果分析—応用一般均衡分析の適用と課題—
64	社会・経済リスクの下での社会資本整備の経済効果分析—応用都市経済モデルの適用と課題—
65	地域公共交通シンポジウムin静岡～多様な視点から「おでかけ」を考えよう～
66	自転車通行空間整備・計画事例集
67	自転車通行空間の設計 ～事例から学ぶ～
68	超高齢社会を支える効率的かつ信頼性の高いロジスティクスシステム
69	交通まちづくり～実践のこれまでとこれから～
70	東日本大震災後の交通と輸送の実態—東日本大震災ロジスティクス調査報告書
70	東日本大震災後の交通と輸送の実態—東日本大震災ロジスティクス調査報告書（その2）
71	自転車利用環境計画の進展と課題
71	自転車通行空間整備・計画事例集 増補版II
72	航空輸送に関する高度なモデル化と統計分析手法の政策への応用；手法論と政策論
73	震災20年をむかえて災害研究のこれまでとこれから～土木計画学の視点から
74	交通計画とビッグデータは土木計画の研究と実践に何をもちますか？

75	「少子高齢社会における子育てしやすいまちづくり～大都市と地方都市、都心と郊外、どちらが子育てしやすいか？～」資料集
76	幹線旅客交通のフロンティア
77	持続可能かつ住みやすい都市を創る都市物流システム
78	「少子高齢社会における子育てしやすいまちづくり～親の視点と子どもの視点～」資料集
79	開発途上国の交通に関するセミナー International Seminar on Transportation in Developing Countries
80	災害時対応～復興支援と災害調査～熊本地震の経験を踏まえて～
81	超高齢社会2020に向けた移動権に関するセミナー
82	土木計画学における空間・経済・統計分析セミナー
83	これからの交通事故リスクマネジメント
84	「少子高齢社会における子育てしやすいまちづくり～都市の（リ）アと心の（リ）ア」資料集
85	これからの空港と次世代航空交通システムの進化
86	スマート・フロンティアの活用と今後の展望～今後のまちづくりの切り札となる新たな手法
87	3次元モデルが変えるまちづくり計画
88	地域アセットマネジメント確立に向けて
89	国土・県土整備の技術と実践—人口減少・交流時代に真に必要なインフラ整備を考える（中部会場）
90	国土・県土整備の技術と実践—人口減少・交流時代に真に必要なインフラ整備を考える（東北会場）
91	国土・県土整備の技術と実践—人口減少・交流時代に真に必要なインフラ整備を考える（九州会場）
92	大災害に道路ネットワークはどう備えるか？ ～道路防災機能評価の新たな展開？～
93	地域アセットマネジメントの実装へ向け～地域ニーズに応じたインフラ管理とは～
94	2018年 都市間旅客交通フロンティアセミナー
95	土木の「領域」再考と社会的実効性ある学会活動の展開 - 土木計画学の視点から -
96	空間的応用一般均衡分析と交通プロジェクトのストック効果
97	健康政策と都市構造を考えたまちづくりの展開方策
98	成果報告会：多様なビッグデータを活用した道路技術研究開発
99	土木計画学セミナー「国土・県土整備の技術と実践」～人口減少・交流時代に真に必要なインフラ整備を考える～ 北海道会場
100	土木計画学セミナー「国土・県土整備の技術と実践」～人口減少・交流時代に真に必要なインフラ整備を考える～ 沖縄会場
101	子育てしやすい子どもにやさしいまちづくり～地域と子育て～
102	健康まちづくりの実践的展開

第4回：交通ネットワークの分析手法－実務と理論研究の接点

在、理論研究サイドが実務に提供できる方法論を幾つか紹介する。以上を要約すると、本セミナーのねらいは、

- (1) 研究、実務の両面から、交通ネットワーク研究の現状と課題を探ること、
- (2) これらの課題に対して研究サイドが提供できる方法論を紹介すること、
- (3) これらによって、計画実務と理論／方法論研究との間のギャップを多少なりとも埋めていくこと

の3点となる。

第4回：水辺づくりにおける地域参加を考える

おられる方から紹介していただきます。他の河川事業の計画検討と同様、水辺づくりに地域参加を導入する計画策定プロセスにおいても、コンサルタントが果たす役割はますます重要となると考えられます。河川管理者の立場とコンサルタントの立場とから水辺づくりの計画策定のプロセスについて理解を深めていただければ幸いです。

国土建設技術研究所東京支社河川計画本部
阿部 令一

第8回：観光交通計画－観光地域の交通問題への対応

これまでデータ制約のために滞っていた観光交通研究も、「全国観光交通実態調査（建設省：1992）」などの大規模データの整備や分析技法の発展によってもはや障壁はなくなり、観光交通計画の体系化が望まれている。

第11回：地域公共交通に明日はあるのか？ －市場・計画・技術の新しいフレームを求めて

高齢化社会の到来、快適な都市環境の達成、情報技術の発達、財源や交通インフラ整備制度の柔軟な運用への期待の高まり、交通事業規制緩和の動きなどの中で、財務的にも岐路に立つ我が国の地域公共交通を今後どのような方向に展開していくべきか、そのためにはどのような研究を発展させて行くべきか、経営、経済、政策、工学、福祉環境などの視点から多面的に検討する。

第12回：福祉のまちづくりの哲学と設計思想

わが国の福祉のまちづくりと交通はその考え方や具体的な展開、つまり、技術、制度、運用、市民参加においては、まだこれからと行ってよい状況にあります。本セミナーでは福祉のまちづくりの根幹をなす考え方、計画思想を問い直し、新しい社会に対応した都市基盤整備を視野に入れた計画論や方法論を模索し構築することを目的といたします。

セミナーの基本姿勢として「福祉のまちづくりと交通」の哲学と設計思想を確認することに重点を置くために「講習」より「討論」に重点を置きます。したがって、まず第1部では3つのテーマ毎に

第21回：行動理論と土木計画

ワグデーセミナー「行動理論と土木計画」

土木計画が人間を対象としたものである以上、土木計画において行動理論や行動分析が重要であることは論を待たない。これまでも、需要予測や便益評価において行動理論、行動分析が重要な役割を果たし、様々な研究が重ねられてきた。特に近年では、公共投資や自然環境、ならびにTDMやITSの評価が社会的に強く要請される中、それらに対応することが需要予測手法や便益評価手法の開発において重要な課題と見なされている。それに加えて、住民参加やPIの必要性、合意形成の重要性、あるいは、社会的な公平性の議論等、様々な新しい課題が現れてきている。これらの課題に対しても、専ら需要予測や便益評価に適用されてきた行動研究の応用可能性を積極的に考えるべきだろう。

本ワグデーセミナーは、以上の様な新たな社会的要請に応えるためにはどのような理論的な枠組みで、そして、どのようなアプローチで個人の行動に着目した研究を行うべきかを、再考する契機を作ることを目的とする。そのために、理論的な側面から具体的な方法論に至るまでの、人間行動に関連する研究についての幅広い発表、討議を行い、新たな行動研究の方向性を探る。

第26回：国際シンポジウム “超長期的展望にもとづく持続可能な都市への再生戦略” －目標、制約と政策－

このシンポジウムは、WCTRS（世界交通学会）交通土地利用分科会メンバーである、この分野における世界の代表的研究者を招いて、土木学会計画学ワグデーセミナーとして開催するものである。

世界の諸都市においては、温室ガス排出など環境面および財政面で二重制約に直面しながらも、持続可能な都市への再生戦略が着実に進められつつある。しかしながら、日欧米の諸都市間においては、生活の質（Quality of Life）、都市景観、交通システムなど対する人々の認識は大きく異なっている。

そこで、シンポジウムではまず、環境制約および財源制約の下で高いQuality of Lifeを実現するための各都市における試みについて、名古屋および世界各都市の目標設定や政策、およびその分析などを含めて紹介される。これを踏まえて、パネルディスカッションにおいては、a)各都市における土地利用・交通政策についての比較や評価、b)計画立案にあつて、従来のような需要予測優先アプローチを採用すべきか、あるいは、制約条件下における目標優先アプローチを積極的に採用すべきか、などについての議論が活発に交わされる予定である。最後に、本シンポジウムのテーマである超長期的展望にもとづく持続可能な都市への再生戦略のあり方についてまとめられることになっている。

第66回：自転車通行空間整備・計画事例集

しかしながら、自転車に取り組んでいるオランダやデンマーク、ドイツなどの国に比べて、自転車の利用空間に関わる専門的知見の集積は、実務面、研究面ともに我が国では大きく遅れています。特に、自転車道や自転車レーンなどの通行形態の実際の空間設計、そこでの自転車や歩行者・自動車の基礎的な行動・挙動特性、多様な施策に対する利用者の評価など、新たな施策展開に関連した科学的知見の体系化が急務となっています。

国土交通省と警察庁では、こうした認識から平成20年1月に今後の自転車通行環境整備の模範となるモデル地区として全国で98箇所を指定し、平成22年度末までに計画344kmのうち273kmのモデル整備を実施してきました。そこでの実務的な知見が多く得られつつあります。

こうした背景を受けて、土木学会土木計画学研究委員会では、平成20年6月より自転車空間研究小委員会を設立しました。この委員会は、自転車空間に関する研究成果を共有し、知見を整理して、「自転車の利用空間のあり方」を工学的立場から提言することを目的としたもので、大学、行政、実務分野での交通工学、道路設計などの40名余の専門家が参画して、セミナー、学会発表会などの活動を行ってきました。本小委員会は平成23年11月に、自転車政策研究小委員会へと発展的に改組して、より幅広い分野の自転車施策に関する活動を開始しています。

本自転車通行空間・計画の事例集は、自転車空間研究小委員会の活動のとりまとめの一環として、上記のモデル事業等で整備された自転車道、自転車レーン、車道部での指導帯、歩道上での分離施策のなかから、注目すべき事例を取り上げて、その整備内容と整備上の工夫、整備効果などを、専門家の立場からとりまとめたものです。さらに、最近着目され